

日本医学会だより

JAMS News

2018年10月 No.60
日本医学会

◆日本医学会公開フォーラム

日本医師会・日本医学会合同公開フォーラムは「HPVワクチンについて考える」をテーマに、平成30年10月13日(土)13:00~17:20、日本医師会館大講堂において開催。後援：NHK。

組織委員は、藤井知行(東京大学・産婦人科学)、高橋孝雄(慶應義塾大学・小児科学)の各氏。参加申し込みは郵便はがき、FAX、本会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)にて受付。参加費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載。

◆日本医学会シンポジウム

第154回シンポジウムは「AIと医療の現状と課題」をテーマに、平成31年1月16日(水)13:00~17:05、日本医師会館大講堂において開催する。

組織委員は、大江和彦(東京大学・医療情報学)、竹内 勤(慶應義塾大学・リウマチ・膠原病内科学)の各氏。参加申し込みは郵便はがき、FAX、本会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載中。

◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を平成30年8月31日(金)に開催し、平成30年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会委員ならびに特例委員が、今年度の推薦数：

医学賞 24、奨励賞 31 を審査した。

選考の結果、11月1日(木)の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・脳機能を支えるシナプスの機能発達、可塑性および伝達修飾の研究/狩野方伸(東大・神経生理学)
- ・大規模コホート研究の推進と日本人のエビデンスに基づいたがん予防法の提言/津金昌一郎(国立がん研究センター社会と健康研究センター)
- ・緩徐進行1型糖尿病(SPIDDM)の成因、診断、および発症・進展阻止治療に関する研究/小林哲郎(冲中記念成人病研究所)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・慢性炎症における肺線維化機構の解明と病態制御基盤の構築/平原 潔(千葉大・免疫発生学)
- ・臓器間連携を介した新規心臓恒常性維持機構の解明による新規診断・治療法の開発/藤生克仁(東大・先進循環器病学)
- ・健康長寿を目指したアンドロゲン受容体を介する遺伝子発現制御機構の統合的同定解析/高山賢一(東京都健康長寿医療センター研究所)
- ・ヒト新生児が有する脳傷害後のニューロン移動メカニズムの解明と再生促進の実現化/神農英雄(名市大・新生児・小児医学)
- ・大腸癌転移における炎症性サイトカインの機

能解析/谷口浩二（慶大・微生物学・免疫学）

- ・シングルセル RNAseq を用いた角膜移植における制御性 T 細胞の可塑性の解析/猪俣武範（順天堂大・眼科学）
- ・行動科学理論に基づく情報通信技術を活用した健康格差是正手法の開発と効果検証/近藤尚己（東大・健康教育・社会学）
- ・災害医療情報の国内・国際標準化/久保達彦（産業医大産業生態科学研究所・環境疫学）
- ・光曝露の健康影響：大規模前向きコホート研究による検証/大林賢史（奈良県立医大・疫学・予防医学）
- ・細胞死からみたアレルギー性気道炎症の新しい評価法の確立/植木重治（秋田大・総合診療・検査診断学）
- ・治療難治性癌に対する脂質メディエーター標的治療の可能性の探索/永橋昌幸（新潟大・消化器外科学）
- ・「希少がん」骨軟部腫瘍のがんプレジジョンメディシンデータベースに基づいた新規治療法開発/末原義之（順天堂大・整形外科学）
- ・嗅上皮障害後の修復過程におけるインスリンの役割の解明/菊田 周（東大・耳鼻咽喉科学）
- ・初期胚発生の遺伝子発現機構を介した胚性の不妊症の病態解明と再生医療の開発/山田満稔（慶大・産婦人科学）
- ・皮膚線維化疾患における yRNA の関与の研究/神人正寿（和歌山医大・皮膚科学）

◆「遺伝子・健康・社会」検討委員会

第 17 回委員会を平成 30 年 10 月 5 日（金）に開催した。

◆平成 30 年度日本医学会分科会用語委員会

本年度は平成 30 年 12 月 18 日（火）14：00～16：00，日本医師会館大講堂にて開催予定である。

◆日本医学雑誌編集者会議（JAMJE） ならびに日本医学会分科会利益相反会議合同シンポジウム

第 2 回日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）ならびに日本医学会分科会利益相反会議合同シンポジウムを平成 30 年 11 月 6 日（火）13：00～16：35，日本医師会館大講堂にて開催する。シンポジウムテーマは「医学研究公表のためのコンプライアンス」で，総会に引き続き，6 名の演者による講演と総合討論が行われる予定である。

◆日本医学会公開シンポジウム「適切な遺伝学用語のあり方」

平成 30 年 12 月 11 日（火）13：00～17：00，日本医師会館大講堂にて標記シンポジウムの開催を予定している。昨今の分子遺伝学研究の飛躍的な発展により，ゲノム医療においても多くの遺伝学用語が用いられている。医学用語管理委員会では適切な医学用語について常に検討をしているが，遺伝学用語についてはさまざまな分野が関連していることから，平成 29 年 12 月，委員会の下に「遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ」を立ち上げ，遺伝学用語のあり方について検討を重ねてきた。

今回のシンポジウムは公開シンポジウムとして「優性」「劣性」という 2 つの用語に絞って検討する。分科会，国語学・教育学の分野，マスメディア，患者関係者の方々を演者に招き，適切な用語に意見集約することを目的としている。

◆日本医学会定例評議員会

第 86 回日本医学会定例評議員会を平成 31 年 2 月 22 日（金）14：00～16：00，日本医師会館小講堂にて開催予定。主な議題は 1. 平成 30 年度年次報告，2. 平成 31 年度事業計画，3. 日本医学会新規加盟学会の件，4. その他である。